

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2020年1月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第32号

東九条は幅広い多文化共生のまち

京都市地域・多文化交流ネットワークサロンは、2011年7月から開始されましたので、事業開始から9年弱が経ちました。事業開始当初から、「多文化」とは何なのかを考え続けてきました。「多文化」は「民族」や「国籍」の違いと考えられがちですが、それだけを表すものではありません。日本社会福祉士会編集『滞日外国人支援の実践事例から学ぶ多文化ソーシャルワーク』（2012年3月）では、「『多文化』という言葉自体は、必ずしもいわゆる外国人との共生に限定されないということである。言い換えると、『多文化は人間同士の間にも存在する』という当たり前のことに行き着く。たとえ国籍は日本人であっても、『異なる文化をもつ集団』はいくらでも存在する。セクシャル、またはジェンダーのアイデンティティが異なる人々、宗教の信仰をもつ人々、民族的な多様性をもつ人々などは、日本にも存在している。また、関西、東北などそれぞれの地域による固有の価値観にしても十分に多文化であるといえる」と「多文化」について明確に説明しています。

ネットワークサロンの事業は、まさしく「多文化」の取り組みだと言えます。ネットワークサロンには、約70の団体が登録をしていますが、「多文化は人間同士の間にも存在する」ことを実証するように、「いわゆる外国人との共生に限定されない」多様な活動をされている団体が集っています。2017年に京都市が発表した「京都駅東南部エリア活性化方針」では、ネットワークサロンがある東九条地域（京都駅東南部エリア）を「幅広い多文化共生」の地域であると説明しています。事業開始から10年目を迎えようとしているネットワークサロンが「幅広い多文化共生」を更に推進していくように努めたいと思います。

（前川修）



東九条野外劇場 ～まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす～

空高い秋晴れが気持ちいい2019年11月17日。東九条に点在する空き地の一つ、マンモス団地跡に大きな野外ステージが誕生しました。ステージの両脇には、バリエーション豊かな屋台がずらり。空き地の入り口そばには、背の高い三角テントと小さな火を起こせるストーブがいくつも。その横にはたくみに枝を組み合わせて作られた不思議な物販ブースが。いつもはぼっかりと佇んでいる空き地が、この日はとっても賑やかな空間となりました。

「東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす」、そう名付けられたこの催しは、市の〈京都駅東南部エリア活性化方針の推進～文化芸術と若者を基軸とした新たなまちづくり推進事業～〉として、この地に同年6月にオープンした、THEATRE E9 KYOTO（シアター イーナイン キョウト）を運営するアーツシード京都が、企画・運営を行いました。“劇場”という名の通り、舞台芸術を中心とした様々なプログラムを企画しました。まず初めにメインステージで行われたのは「市民狂言」。狂言師・茂山千之丞さんを講師としてお迎えし、地域の方と作ったオリジナルの狂言です。まるで初めて舞台に立つとは思えないほどの晴らしい声と所作で披露されたユーモアたっぷりの狂言に、会場は大きな笑いに包まれました。その後が続くのは東九条マダンの皆さんによる「ブンムルノリ」。30名を超える隊列で打楽器を鳴らしながら入場し、ステージではなく、大地を踏みしめながら披露される「チシンパルギ地神踏み」は、一瞬で会場を虜にしました。また、時を同じくして、京都駅前広場には、なんと個性豊かな大道芸人さんたちが！空高く上がるジャグリングや、火のあがるパフォーマンスに観光客を始め多くの方々に楽しんでいただきました。その後、大道芸は会場に近づく形で、近隣の公園や施設などを会場に、まさに東九条一帯を盛り上げていただきました。そして日が落ちだした17時ごろ。メインステージでは、現代美術家・森村泰昌さんによる“野生「能」2019”が、静か



な緊張感を持って始まりました。“能”の形式を取り入れたこの作品は、神戸の新長田、大阪の釜ヶ崎、そして京都は崇仁・東九条という3つの下町を題材に制作されました。時に旅人として、時に架空の政治家として、まちをめぐり、まちによりそい、そしてこれからのまちの姿を示唆してくれた森村泰昌さん。この作品を本催しで多くの皆さまと共有できたことは、大変感慨深いものでした。

そして、ラストは大道芸人さんが一同に集い、鮮やかな演奏やパフォーマンスの数々とともに、東九条野外劇場は幕を閉じました。

来場者数は16日の前夜祭と合わせておよそ3900人！メインステージのそば、声を上げて走り回る子どもたち、



屋台の美味しい食べ物とお酒を飲みながら舞台を楽しむ大人たち、火を囲みながら初めて出会う人たちと交流する学生たち。たくさんの人々がこの場所に集い、いくつもの笑顔や楽しむ姿を見ることが出来ました。そして何よりも、出演者、スタッフ、各関係者をはじめ多くのボランティアの皆さんのご協力のもと、この催しを行うことができました。そのことに深く感謝するとともに、様々に異なる立場の人が自然と助け合い、受け入れていく、



そんな東九条の懐の広さを改めて感じることが出来ました。

1日限りの「野外劇場」は、まるで夢のように、その閉幕とともに消えてしまいました。しかし、確かに私たちはそこで、作品を、時間を、ともにしました。そして、東九条には“100年続く”をにかけて立ち上がったTHEATRE E9 KYOTOという劇場があります。

ここでは毎週末のように、舞台公演が行われています。“文化芸術を軸としたまちづくり”というものが、どういったことなのか。その答えはすぐに出るものではありませんが、皆さまと作品を共に楽しむことができる、そんな場所時間が、まちのなかにある。まずはそこから、スタートできればと思います。

(THEATRE E9 KYOTO 事務局 福森美紗子)

第40回 京都福祉まつり開催報告

去る2019年10月20日、鉾立公園にて、第40回 京都福祉まつりを開催いたしました。京都福祉まつりは毎年、実行委員会形式で運営しており、今回は京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにも実行委員会に加わっていただき、こういった企画内容にするかという段階から一緒になってイベントづくりをしました。

会議の話し合いの中で、今年のメインテーマの一つとして「運動会」を行ってみたいという意見が出ました。京都福祉まつりで行う運動会ということで、どんな人でも参加しやすい種目・より多くの人に参加してもらえる競技はどういったものなのかということについて、案を出すことに時間をかけて議論を重ねていました。そこで会議に出席されていたネットワークサロンの宇山さんから「東九条の子どもたちに競技中、鳴り物を鳴らしてもらおう形にしたら、子どもたちも一緒に参加しながらより盛り上がるのではないか」という意見が出て、子どもたちへの声かけも宇山さんに協力していただきながら進めることができ、子どもたちは当日の運動会を大いに盛り上げてくれました。

加えて、飲食や物品販売の出店に関してもネットワークサロンの加盟団体に広く呼びかけていただいたおかげで、協力していただける個人・団体が前回よりも増え、さらなる内容の充実につながりました。東九条ならではの飲食物や物販なども多かったので、参加者に親しみを持って購入してもらえたのではないかと思います。

京都福祉まつり全体としては、メインテーマである「運動会」の他にも、歌あり踊りありライブペイントありと多彩な内容でした。盛りだくさんの内容の中でも、何とか準備を進め、全体として例年以上に盛り上げることができたのもネットワークサロンの協力があったからだと感じています。また、宇山さんは「一緒に楽しみながら」福祉まつりの企画づくりに加わってもらっている印象があり、とても嬉しかったです。



しかし、同時に私たち自身の力不足も感じています。なかなか会議では意見が出なかったり、他団体への呼びかけ、対応など不十分な点も多く、ご迷惑をかけたと思っています。

今回で2回目となる鉾立公園での京都福祉まつり開催。今後、さらに継続して行い、定着させていくためにも、私たち障害者自身の



意識改革が必要だと感じています。第40回で広がった「輪」をより一層大きなものにして「私たちだからこそできる京都福祉まつり」「東九条だからこそできる京都福祉まつり」を創りたいので、今回関わって下さった皆さま、これから参加したいと思っている皆さま、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。（日本自立生活センター 下林慶史）

＜新登録団体の紹介＞

九条劇

こんにちは、浜辺ふうです。私は東九条で生まれ育ちまして、現在も地域にどっぷり浸かって活動しております。今回、私のソロ演劇ユニット〈九条劇〉が登録団体として仲間入りしました。どうぞよろしくお願いいたします。〈九条劇〉は劇の名前ではなく、劇団の名前です。劇団と言っても、一般的に想像されるような大人数で構成されている組織ではなく、私が一人で企画運営しているソロユニットです。演劇の制作・発表、そしてときには学校公演を含めての人権学習のコーディネートなども行い、各企画によって必要な役者やスタッフをその都度集めて活動しています。九条劇のお芝居は、東九条地域の文化や若い世代のアイデンティティをテーマに創作しています。地域の歴史を調べたり、様々な運動を展開してきた先輩方に話を聞いたりしながら、台本を書いています。言葉からはみ出た部分は、歌や楽器の演奏で表現します。私はよく朝鮮半島の音楽を芝居に使いますが、それは私自身の演劇のルーツが「東九条マダン」にあるからだと思います。



第二回公演「エコー」撮影：加藤優里

1993年、東九条マダンが始まった年に私は生まれました。そんな私にとってマダンとは、遊び場であり、学び場であると同時にまた、自分という人間を表現する場でもありました。

演劇という形態を借りながら社会に蔓延する問題を風刺することで、それを笑いに換え、明日また生きていく力を生み出す。それがなんとも痛快で、心地いい。マダンとは、ひとりひとりがそれぞれの思いを持って参加していますが、私にとってマダンとは、演じながら闘うことを教えてくれた場でもありました。闘うのは社会、あるいは自分の中にある固定概念や偏見。演劇を通してそれと向き合ってきた経験は、今も私の大切な原体験として残っています。2018年6月の旗揚げから1年半、たくさんの方に協力していただき九条劇は3つの演劇作品を制作・上演することができました。第一回目は、ポストコロニアル社会



九条劇第三回公演「キルト」撮影：中山和弘

を生きるある日本人の若者の葛藤を主題とした『浜辺ふう版・一人芝居 ウリハラボジ』（@Books x Coffee Sol.）。第二回目は、東九条の歴史をどう若い世代が語り継ぐのかということを考えながらつくった二人芝居『エコー』（@九条湯）。第三回目は、THE ATRE E9 KYOTOで行った音楽劇『キルト』

です。地域内外からたくさんの方々が見に来てくださり、毎回、70%くらいのアンケートが返ってきます。私にとってはそれを読むことが本番と同じくらい、もしかしたらそれよりも重要なことに思います。自分の表現がきっかけで対話が生れることがとても嬉しいからです。東九条がもっと色々な人にとって居心地の良いまちになるように、たくさんの人と話したいなと思っています。みなさんのことを知りたいです。今後ともよろしく願いいたします。（九条劇 浜辺ふう）

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□開館時間：9時～17時 □webサイト：http：www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス42・202・207・208系統 九条河原町より徒歩10

16・84系統 河原町東寺道より徒歩1分